

江東区 オリンピック・パラリンピック まちづくり基本計画



平成 27 年 6 月

江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画の策定にあたって



2013年9月8日、オリンピック・パラリンピックの2020年東京開催が決定し、日本中が歓喜と興奮に包まれました。1964年の東京大会が世界中に感動を与えてから半世紀以上を経て、2回目の東京開催を迎えます。1回目の東京大会時、私はまだ大学生でしたが、この時に参加したボランティアの体験は今も私の中で財産になっています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが、区民の皆さんに感動と希望を与え、その体験が素晴らしい財産として心に残ってほしいと願っています。

オリンピック・パラリンピックは、施設、インフラ、テクノロジーなどの物理的なものから、社会政策、環境、文化、教育などの無形なものまで、あらゆる分野において前進させる力があります。そして、それらは新しい価値を生み出し、レガシー（遺産）として次世代へ受け継がれていきます。

江東区には多くの競技場が配置され、競技場周辺の開発はますます加速していきます。これを一極性・一過性に終わらせることなく、まちづくりの様々な効果を区内全域に波及させて新たなレガシーを創造し、江東区の持続的な発展につなげていかなければなりません。

私たちの身近な場所で世界最大の祭典が開かれる、この、またとない機会を生かし50万区民とともに世界の人々を惹きつけるおもてなしを行い、大会開催後も世界に開かれた江東区として、国籍や年齢、障害の有無にかかわらず、誰もが気軽にまちあるきやスポーツなどを楽しめるようにしていきたいと考えています。

その実現に向けて、この度、「江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画」を策定し、目指すべき都市像を掲げました。

策定にあたっては、みんなで江東区の将来を描くことがとても大切であり、既成概念にとらわれず、自由な発想でチャレンジしていかなければならないと考えました。

そこで、区民の皆さんのアイデアを聞くイベント「聞かせて！あなたのオリンピック・パラリンピック」を開催し、延べ1,242名もの方々から生の声を聞きました。そして、いただいたご意見やアイデアは、本計画の策定において参考にしています。この計画は、みんなの情熱と夢が詰まった計画です。

この夢を実現させるには、国、東京都、民間事業者、江東区が連携し、区民とともにそれぞれの立場でまちづくりを進めていかなければなりません。そのために、今後、関係機関等への要望や江東区としても様々な取り組みを進めて、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時だけでなく、開催後も力強く発展していくためのレガシーを生み出しながら、江東区が世界に通用する魅力あるまちづくりを目指していきます。

平成27年6月

江東区長
山崎孝明

目次

1. 本計画について	1	
1-1. 計画の背景と目的	1	
1-2. 計画の視点	1	
1-3. 計画エリア	1	
1-4. 計画の位置づけ	2	
1-5. 計画の期間	2	
1-6. 計画の構成	3	
2. 江東湾岸エリアの目指すべき都市像 / 3つゾーンと目標	4	
2-1. 地区の現状と課題	4	
2-2. 目指すべき都市像	5	
2-3. 3つのゾーンと目標	5	
3. 江東湾岸エリアの 10 の視点とその方針	7	
視点 1. 土地利用	複合市街地の魅力を楽しめるまち	7
視点 2. みどり	CIG を先導するまち	8
視点 3. 水辺	水辺と日常生活がともにあるまち	9
視点 4. 歴史・文化・観光	伝統と未来をつなぐスポーツ観光のまち	10
視点 5. 景観	景観がブランドとなるまち	11
視点 6. 防災	東京で一番安全・安心なまち	12
視点 7. 環境・エネルギー	最先端のスマートコミュニティを目指すまち	13
視点 8. スポーツ・レクリエーション	世界を魅了するスポーツのまち	14
視点 9. 交通	多様な交通手段が確立されたまち	15
視点 10. ユニバーサルデザイン	先進的なユニバーサルデザインのまち	16
4. 区内全域への波及効果	17	
4-1. オリンピック・パラリンピックを契機としたまちづくりの考え方	17	
4-2. 深川・城東エリアへの波及効果の活用	19	
5. 資料編	21	
5-1. 東京都への要望	21	
5-2. 策定の経緯	23	
5-3. 用語集	25	
5-4. 江東区の現状	27	